

瀋陽駐在員事務所

瀋陽桃仙国際空港



新ターミナル(T3)



路面電車

8月15日、瀋陽の空の玄関口である瀋陽桃仙国際空港の新ターミナル(T3)が開港しました。瀋陽桃仙国際空港は1989年4月に第1ターミナル(T1)が開港し、2001年12月に第2ターミナル(T2)が開港しました。今回の新ターミナル(T3)は2011年4月に工事が着工され2年4ヵ月の工期を経て完成しました。従来のターミナル(T2)に比べ広さは約3.5倍、中国国内では北京、上海、広州等に続いて6番目に大きな空港となりました。国際線は7ヵ国20路線、国内線は119路線があり、2012年は年間1,100万人の利用客がありました。今後は年間1,750万人の利用客を見込むそうです。滑走路も第4滑走路まで増やす計画で、2020年には年間2,500万人の利用客を見込む東北3省のハブ空港を目指しています。また、空港と市内を結ぶ新しい交通手段として、路面電車も運行を開始しました。到着フロアから50m位の所に停留所があり、そこから最寄りの地下鉄2号線の駅までを運行します。所要時間は約40分、運賃は4元(約64円)です。車窓から、発展中の瀋陽の街並みを見ることも出来ます。時間に余裕のある方は一度乗車してみるのも面白いかもしれません。

山田 光紀

(財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室

どっちが高い??



日本でもお馴染みの珈琲

中国では、日本でも馴染みの様々な珈琲が購入できます。しかし、日本では、加糖(砂糖・ミルク入り)も無糖(ブラック)も値段は同じですが、中国では異なります。日本から来た方に「どちらが高いでしょうか?」と質問すると、大半の方が「加糖!」と期待通りの答えが返ってきます。理由を聞くと「加糖の方が、砂糖やミルクが入っている分高くなる」との事ですが、答えは無糖の方が高いです。実際の価格ですが、小職が購入した商店では、加糖が4元(約60円)で、無糖が12元(約180元)と3倍の値段です。

ではなぜ、ここまで値段が異なるのでしょうか?

中国人はあまり無糖の珈琲を飲む習慣がありません。地元の喫茶店で珈琲を注文すると、既に砂糖やミルクが入った珈琲が出てくるのが一般的です。ですので、加糖の珈琲は中国人にも好まれ消費量が多いため、現地(中国)生産をしています。無糖は、消費量が少ないため、日本から輸入をしています。そのため、流通コスト・関税などが上乗せされるので、無糖の方が価格は高くなってしまいます。

珈琲に限らず、日本からの輸入品の大半は、日本での売価の3倍以上が通常です。「日本の製品だから安心・安全であり値段が高くても売れる」というのは間違えて、価格が半分以下の中国の同製品に対抗するには、余程の付加価値が無いと厳しいのが現実です。

中国製品との差別化を図る為にも明確な「戦略」が必要であり、その延長線上に「高くても買う」という中国人の消費行動が生まれて来るのではないのでしょうか?

佐藤 孝太郎

ユジノサハリンスク駐在員事務所

ロシア人の夏休み



コルサコフ海岸



週末のガガーリン公園

ロシアに於いて夏は一番楽しい季節です。学生（小・中・高）は6月から8月までの3ヶ月間、長い夏休みがあります。サハリン州はロシアの他の地域に比較し有給休暇が一番長く44日間で、殆んど夏に1ヶ月間の夏休みを取って、旅行へ行くのが一般的です。

今年の夏休みの予定に関する統計データによると、ロシア人の45%は家で時間を過ごしますが、22%はダーチャ（別荘）に行き、21%は国内旅行、12%は海外旅行です。

サハリンの夏のレジャーとしてはバーベキュー、ハイキング、釣り、ダーチャ（別荘）での休日、海水浴を楽しむ人が多いです。週末の天気の良い日には、このチャンスを利用して、すぐ荷物を準備して、コルサコフ、アニワという海水浴場がある場所に向かいます。このため、日曜日の夕方は市内へ向かう道路はいつも渋滞しています。

ロシア人は日光浴をするのが大好きです。ロシア人は肌が白いため、小麦色に焼けた肌が一番美しいと考えています。日光浴をし過ぎてやけどをした場合、ウォッカやヨーグルト、クリーム（料理に使用するもの）を塗って、自分で痛みを緩和します。

このように、夏の過ごし方には色々ありますが、ロシア人にとって一番重要なのは、場所ではありません。親しい友達と集まり、仕事の後で楽しく時間を過ごし、リラックスできる時間を大切にします。

マリア・ヤロヴェンコ